

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 11 月 17 日

【評価実施概要】

事業所番号	21706000502		
法人名	合資会社 若葉		
事業所名	グループホーム 若葉		
所在地	羽島郡岐南町平成2丁目139番地 (電話) 058-247-1932		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年11月12日	評価確定日	平成20年12月2日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

主要幹線道路に近い田園地帯には昔からの工場・倉庫・トラックターミナルや人家が点在し、その一角に鉄骨・木造2階建てのホームがある。地域との交流は難しい環境ではあるが、一体の建物のように隣接する接骨院に通院する患者や地域住民と利用者が一緒になり、ホームの多目的ホールで各種イベントを楽しんでいる。また、雨に濡れないで行き来できる接骨院の新しい各種リハビリ機器は安価に使う事ができ、母体法人経営の福祉機器レンタル会社の車イス・電動ベッド・エアマット等が無料で使用されており、利用者の身体機能の維持・回復や職員の体力負荷の軽減に貢献している。介護度が高い利用者が多く、近代的な機器を駆使しているが、一般家庭に近い温かさが感じられるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）
	<p>前回評価の改善課題であった第三者苦情相談窓口は、重要事項説明書に明記され、改善されている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）</p> <p>評価制度を前向きにとらえ、日頃の行動のチェック項目として見直し、利用者のサービス向上に生かそうとする真摯な態度がうかがえる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6）</p> <p>運営推進会議は、家族、地域包括支援センター職員、地域住民、自治会代表者などが出席して隔月に開催されている。開催日には、広く一般にも呼びかけた何らかのイベントを行っており、その後の会議には、イベントに参加した住民の多くが留まって出席している。詳細な議事録も作られている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8）</p> <p>ホームへの支払いは、家族が直接来訪して手渡しする事を入居条件としており、その時に情報交換したり意見・意向を聞くように努めている。イベントや隔月に行われる運営推進会議などもそうした時期に設営される事が多く、家族の負担を軽くする配慮もされている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）</p> <p>おかれた環境では、地域との交流は決して楽な状況ではないが、多目的ホールをうまく使い、そこでのイベントを核として、経営者自ら積極的な参加者募集活動を行って、明るく賑やかなホーム作りに成功している。</p>

【情報提供票より】 (平成 20 年 10 月 3 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 16 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	11.2 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨・木造 造り		
	2 階建ての	1 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,000・28,000 円	その他の経費(月額)	19,000~ 円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(50,000・80,000円)	有りの場合償却の有無	無(居室原状回復費有)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 10 月 3 日 現在)

利用者人数	17 名	男性	6 名	女性	11 名
要介護1	1 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	7 名		
要介護5	5 名	要支援2	名		
年齢	平均 81.9 歳	最低	69 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松波総合病院、杉浦内科眼科、梅田クリニック、高瀬歯科医院
---------	------------------------------

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「人間として尊敬される。人権と人命の尊重。」の理念と、その理念を実践につなげるスローガン「尊厳と価値のある人生を送れるよう最善の支援を！」が作られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員の胸につけられた名札の裏に書かれ、居間・食堂にも掲示され、会議などでも徹底されている。トイレ誘導や入浴・着替えなどで理念「尊厳」の教えが実践されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	田園地帯に工場・物流倉庫・人家が点在するような所で地域との交流は難しいが、町や地域の行事には積極的に出向いている。さらには、ホームの多目的ホールを使って行事を行う時は、近隣住民や隣接する接骨院の通院者へ参加を呼びかけ、努力し、盛況である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価制度を前向きにとらえ、日頃の行動のチェック項目として見直し、利用者のサービス向上に生かそうとする真摯な態度が感じられる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は家族・地域包括支援センター職員・地域住民・自治会代表者などが出席して隔月に開催されている。開催日には何らかのイベントも行い、その後の会議には、地域住民10人前後の出席もある。詳細な議事録も作られている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	経営者は、ホームの運営のみならず、地域包括支援センター運営協議会委員としての公職も歴任し、地域貢献活動にも積極的である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居条件の一つにホームへの支払いは家族が直接来訪して手渡しする事になっており、その機会に利用者の状況や金銭管理の報告がされ、意見・意向を聞くように努めている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の支払日での面談や、隔月に行われる運営推進会議出席時等の機会を捉えて家族の意向の把握に努め、出来る事は直ちに実施されている。玄関口には意見箱があり、第三者苦情窓口も重要事項説明書に明示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員には担当の利用者を決めてあるが、基本的には全員が全員を支援して交代任務についており、職員異動はあってもほとんど影響がない体制がとられている。離職者が復職する事もある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経営者は、資格取得や各種講習・研修には積極的で、ホームの経費負担で優遇されている。休憩は別室で所定の時間通り取ることができ、休暇も管理者が調整し、働きやすい。月例会議出席者には近くの銭湯の入浴回数券が配られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協会に加入している。町主催の勉強会・意見交換会に出席したりして同業者と共に向上を図っている。経営者は、地域包括支援センター運営協議会委員として広い立場に立って斯業全体にも貢献している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の聞き取り調査で入居の必要性を把握し、家族と一緒に来訪してもらい、馴染む事が肝要として既利用者と食事をしてもらっている。訪問介護・デイサービス・ショートステイと段階を踏んで入居に至る場合もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	玄関ホール、食堂・居間、廊下などホームのあちこちを飾る大きな貼り絵は利用者と職員の共同作品である。その制作段階で利用者から学ぶ事が多いという。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族から得られた日常的な小さな不満から、もう少し先の漠然とした不安まで、折に触れて自然な形で把握し、その思いを尊重するように努めている。	○	自然な形で把握した貴重な利用者の思いは、利用者概要書(フェイスシート)に記録する等して、後々の職員が容易に閲覧できるような工夫が望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月例の会議や個人会議で利用者の介護計画・ケアの実施・見直しなどを話し合い、本人や家族の希望を取り入れた計画を作り直して実践し、こうした作業を繰り返して最適な計画作りに努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者本人に変化があった場合は、月例会議を待たずに随時変更され、新たな計画について家族や職員と話し合いがもたれ、注意深く実践されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	接骨院によるリハビリやマッサージ、福祉用具の無料使用、通院支援、入院後の医療機関との協働など、外部経営資源や職員の能力を十分使って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護師でもある職員が医師に、ホームが本人・家族との橋渡しの立場である事を日頃から説明して、定期的な往診のみならず、容態変化の時など、電話相談も出来るようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでできる範囲までは支援したいとして、重度化した場合のマニュアルもあり家族へも説明のうえで同意書も交わされている。職員には看護師もいて経管栄養・点滴はできるが、酸素吸入は設備がなく入院となる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の記録等は事務室に保管され、職員教育も徹底している。利用者の尊厳については経営理念そのものであり、経営者自ら率先垂範している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	新聞購読、塗り絵、編み物、縫い物など利用者本意の時間を過ごしてもらっている。行きつけの美容院へは送迎され、自分用の買物は自分で選択する支援も行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	電磁コンロや対話型システムキッチンが使用されており、利用者は安心して調理や洗い物に参加できるし、職員も見守りしやすいレイアウトになっている。胃ろうや軟食、刻み食、ミキサー食にも個別に対応している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ユニット毎に、交互に、週3回、隔日に入浴するのが基本ではあるが、希望であれば連日の入浴もできる。大型のユニットバスに特注で手すりも付け加えられ、安全・安心な構造になっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	昔自転車屋だった利用者は車イスの空気圧を点検し、食後の片付けなどは出来る人が出来ない人の分も行うなどの役割分担が出来ている。音楽療法や接骨院のマッサージは利用者には好評である。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車の交通量が多い環境や利用者の状況から散歩・外出はメンバーが固定化しやすい。玄関口の駐車場は足場もよく、手軽に日光浴・外気浴が楽しめる。年1回、ホテルでの会食を定例化し、ほとんど全員が参加し、特別な利用者の費用負担は無い。	○	介護度が高い利用者が多く、閉塞感を感じないよう、簡便に外気浴ができるような工夫が望まれる。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵の設備はない。玄関口は、表通りがトラック等の交通もあり、午前中は施錠しないで見守りされているが、午後は入浴等で職員が手薄になる事もあり、施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常用食料と水は、近くのトレーラーハウスで保管し、防災訓練も行われている。2階の非常階段は建物の間に造られた幅広の屋根付であり、その踊り場は格好の物干し場である。スプリンクラー設置工事は検討中である。	○	非常用階段は、洗濯物等が多いため避難時の妨げになる可能性があり、本来の目的を損なわない範囲での有効利用が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	細かなバイタルチェックや排便・排尿・3食の摂取量・水分補給量が見守りされ、記録管理されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2階との往来には幅広の階段と3名定員の施設型エレベーターがある。2台の車イスがすれ違える広々とした廊下であり、車イス対応型の洗面所があり、トイレ内で温水シャワーを使い着替えもできる設備もある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は洋室・和室の2種類がある。電動ベッドは天然ゴムマット付で、エアマットを使う場合も含めて利用者の負担は無い。部屋は各自の好みで飾られている。	○	居室の窓は約10cm程度しか開かないため、安全を損なわない程度で、今一段の開放感が望まれる。

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。